

## ハチクマ Honey Buzzard

前回のサシバ (Gray-faced Buzzard-Eagle) ができれば、やはりハチクマをその次にだすのが順当でしょう。秋の渡りには数の上では第2位を占めていますが、その風格と一羽一羽の 패턴の違いに固有の魅力があります。

英名の “Honey Buzzard” はハチクマの名のとおりハチ類の幼虫を好んで食べるところに由来するようです。幼虫ばかりか蜜、蟻蜜をも食べるところから、蜜にウエイトをおいて「Honey (蜜) を食べる大型のタカ」ほどの意になります。

和名のハチクマも実によくその習性をとらえた味のある命名と思いませんか。その由来は「ハチを食べるクマタカのようなタカ」という意味です。

なお、本によってはハチクマを Crested Honey-Buzzard、または Oriental Honey Buzzard としているものもありますが、特にいずれが正しく、どれが間違っているという性質のものではありません。Crested は「Crest (とさか、冠毛) のある」という点を強調し、Oriental は (東洋の) という分布上のポイントを強調しているのです。一種の鳥にもいろいろな呼び方があるものと柔軟に受け入れましょう。

いずれにしてもこのハチクマ (Honey Buzzard) はハチの子、ハチの巣取りの名人で、主食の約70%はハチの類であるといわれています。

サシバより一回りも大きく、個体差のはげしいこのハチクマを観察する際には、その珍しい食性にも思いを馳せながら観ればまた一味違ったバードウォッチングとなるでしょう。

大宮のハクトウワシ